

平成 27 年度 発達障害理解推進拠点事業  
成果報告書（概要版）

実施機関名（ 愛媛県教育委員会 ）

1. テーマ

教職員や保護者等が発達障害に関する正しい知識を習得するとともに、教職員の指導力と専門性を向上させるための実践研究を行う。

2. 問題意識・提案背景

本県は、生活圏域により、東予、中予、南予の 3 地域に大別でき、その地域や市町ごとに特別支援教育の充実に向けた取組にばらつきがあるのが現状である。拠点校及び理解推進地域を指定した南予地域に存する八幡浜市においては、生活面や学習面において困難さを抱える幼児児童生徒が増加傾向にあり、支援体制の構築はもちろん、実際に指導を行う教員の発達障害に関する専門性を向上させることが喫緊の課題となっている。

八幡浜市では、相談窓口の一本化や関係機関等との連携強化が求められる中、平成 27 年 4 月に教育支援室を新設した。また、市の特別支援連携協議会では、子育てリレーファイルや保護者用啓発リーフレットを作成し、平成 28 年 4 月からの運用を目指している。こうした取組との関連を図りながら本事業を推進することにより、南予地域における特別支援教育の拠点として、効果的に教員の発達障害に関する専門性の向上や、特別支援教育の理解啓発を図れるものと考えている。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
八幡浜市	神山小学校（かみやましょうがっこう）

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
八幡浜市	神山幼稚園（かみやまようちえん）
八幡浜市	松蔭小学校（まつかげしょうがっこう）
八幡浜市	川上小学校（かわかみしょうがっこう）
八幡浜市	八代中学校（やしろちゅうがっこう）

#### 4. 拠点校における取組概要

<p>拠点校特別支援教育研修会（年2回）</p>	<p>①自閉症スペクトラムの特性理解と具体的支援 【講師】宇和特別支援学校教諭</p> <p>②LD、ADHDの特性理解と具体的支援 【講師】愛媛大学教育学部教授 花熊 暁 氏</p> <p>拠点校の全ての教員が、発達障害に係る基礎的な知識・技能を身に付けるために、基本的な障害特性や法制度の枠組みなどを学んだ。</p>
<p>理解推進地域研修会（年2回）</p>	<p>①発達障害の特性理解と保護者への対応 ②特別支援教育の充実のための異校種間連携の在り方 【講師】愛媛大学教育学部准教授 榎木暢子 氏</p> <p>拠点校及び理解推進地域の教員が、発達障害に関する正しい知識を習得するとともに、外部機関との連携、異校種間での学校連携について学んだ。</p>
<p>事例検討（年3回）</p>	<p>①②通常の学級に在籍する児童へのケースカンファレンス ③来年度就学予定の幼児へのケースカンファレンス 【指導助言】 宇和特別支援学校教諭 チヨダクリニック医師 近藤 強 氏</p> <p>通常の学級に在籍している発達障害の可能性のある児童等について、専門家からの助言等を受けながら支援の在り方を研究するとともに、関係教員の指導力の向上を図った。</p>
<p>授業研究会（年2回）</p>	<p>①②ユニバーサルデザインの授業づくりと個へのかかわり 【指導助言】愛媛大学教育学部教授 吉松靖文 氏</p> <p>事業実施にあたり、ユニバーサルデザインの視点による授業改善の取組について、専門家の視点から授業場面に応じた適切な配慮や支援について指導助言を受けた。</p>
<p>連携会議（年2回）</p>	<p>①児童養護施設との連携会議 【指導助言】臨床心理士 徳田美保 氏</p> <p>②理解推進地域内の幼稚園、小・中学校の連携会議 【指導助言】八幡浜市教育委員会教育支援室</p> <p>①児童養護施設から学校等に通学する困り感を抱えた幼児児童生徒について、関係機関との連携を図った。 ②事業の実施にあたり、理解推進地域の特別支援教育コーディネーター間で、事業に関する理解啓発及び情報交換等を行った。また、平成28年4月から運用予定の子育てリレーファイル等の活用方法や個別の教育支援計画との関連について研修及び協議を行い、理解を深めた。</p>
<p>成果普及報告会・セミナー</p>	<p>①授業公開 ②成果普及報告会 ③講演会 【講師】星槎大学准教授 阿部利彦 氏</p> <p>理解推進地域内の教職員、保護者、地域住民等を対象としてユニバーサルデザインによる公開授業を行うとともに事業の成果普及を図るための報告会及びセミナーを実施した。</p>

## 5. 主な成果

### (1) 拠点校における研修について

発達障害に関する専門性の向上を図るための研修を年間計画に位置付け、専門家からの指導・助言を得ながら進めることによって、基礎的な知識や支援技能を身に付けることができた。教職員を対象に行った授業評価では、すべての項目において事業開始時と比較して、自己評価が高くなっていることから、理解を深め、自信を持って指導に取り組むことができつつあることが分かった。

また、ケースカンファレンスにおいて、特別支援学校や医療機関から専門的な指導・助言を受けることによって、支援方針を一層明確にして対応することができた。授業研究の対象学年である5学年の児童について hyper-QU で変容を確認したところ、学校生活意欲尺度における友達関係・学習意欲・学級の雰囲気 の3領域が、6月の調査結果から全国平均の値を上回る状況に改善するなどの成果が見られた。

### (2) 理解推進地域における研修について

発達障害の有無にかかわらず、どの子供に対してもニーズに応じた支援をしていくという特別支援教育の理念や基本的な考え方を理解することができた。また、現在の理解推進地域の体制を生かした各学校担当者の顔が見える連携の有効性についても確認することができた。

### (3) 連携会議における研修・協議について

児童養護施設との連携会議では、外部講師等の指導・助言を得ながら、施設から通学する幼児児童生徒の実態や課題、今後の支援の方針等を協議し、個別の教育支援計画の作成や見直しに生かすことができた。また、理解推進地域内の学校・園の連携会議では、特別支援教育コーディネーターを中心に、事業に関する理解啓発等について異校種間の連携を図ることができた。

## 6. 今後の課題と対応

(1) 本事業を推進していく中で発達障害の有無にかかわらず、人とかかわることが苦手な児童が相当数いることが明らかになったことから、ユニバーサルデザインの視点の一つである児童相互の考えを伝え合ったり教えあったりする共有化の視点を踏まえたアプローチや、教科指導等におけるSSTの活用についても研修を進めていきたい。

(2) 今ある校内体制、中学校区の体制を生かしつつ、外部専門家など第三者の声も取り入れながら、連携体制を確立するとともに、本事業の成果を積極的に発信し、発達障害の理解啓発に努めていきたい。

(3) 教育支援室を中心に、児童相談所や保健センターなど関係機関との連携を図りつつ、子育てリレーファイルを媒体とした支援を充実させていきたい。

## 7. 問い合わせ先

組織名：愛媛県教育委員会

- |             |                              |
|-------------|------------------------------|
| (1) 担当部署    | 指導部特別支援教育課教育指導グループ           |
| (2) 所在地     | 愛媛県松山市一番町4丁目4番地2             |
| (3) 電話番号    | 089-912-2965                 |
| (4) FAX 番号  | 089-912-2964                 |
| (5) メールアドレス | tokubetsushien@pref.ehime.jp |